

# 吠えを落ち着かせるには

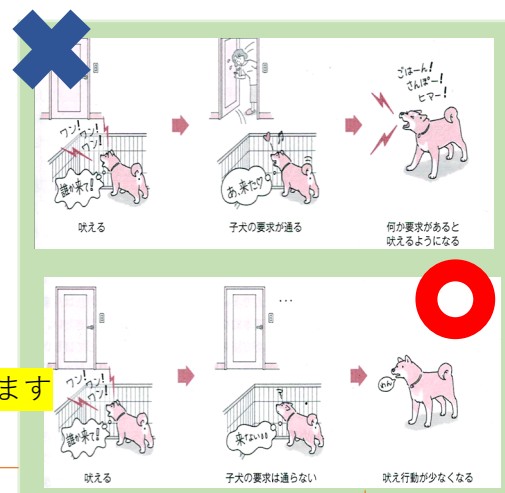
基本的に犬は吠える動物ですが、  
過度な吠えは、子犬時代の学習によることがほとんどです

子犬時代に家族との生活で問題となる吠え行動

- ① 関心を求める行動としての吠え
- ② 興奮時の吠え

①、②ともに吠える事で、

子犬にとって良い結果が得られることで吠えを学習してしまいます



## 原因別 対策方法

### ① 関心を求める行動としての吠え

・ ひとりになると吠える場合…留守番のトレーニング例)

1. 飼い主が別室に移動するなどの練習から始めましょう

2. 子犬が不安がる前に必ず戻り、子犬には飼い主が戻ってくることを学習させます

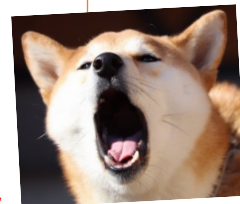
留守番の練習をする際は、十分に遊び疲れて眠るくらいのタイミングがよいでしょう  
コング等を与えてから出かけることで留守番は楽しい時間と学習させる事ができます

・ 飼い主に向かって吠える場合

吠えることで「誰か来てくれる」と学習していることが多いです

吠えている時は、声をかけたり、顔をみたりしないよう家族で統一しましょう

**結果→「吠えても要求は通らない」と認識し、吠えない方が得と学習するでしょう**



### ② 興奮時の吠え行動

・ 子犬にとって楽しいことが始まる前に吠える場合

興奮している時に、食事を与えたり、散歩、遊びを始める前に

「マテ」や「オスワリ」の合図をし、落ち着かせてから楽しいことを始めましょう

**結果→楽しいことを始める前は「待つ」ことがルールと確立されます**

※「マテ」「オスワリ」ができない場合…

落ち着くまでひたすら待ち、落ち着いたら対応しましょう

・ 人や他犬を見ると吠える場合

他犬や人と落ち着いて交流できるように

人や他犬と触れ合う前は必ず「オスワリ」と合図し、犬が落ち着き、

飼い主の目を見ればOKサインをだし、交流させる練習を繰り返し行いましょう



※「オスワリ」がまだできない場合…

犬が名前を呼ばれたら飼い主に集中できるよう練習しましょう